

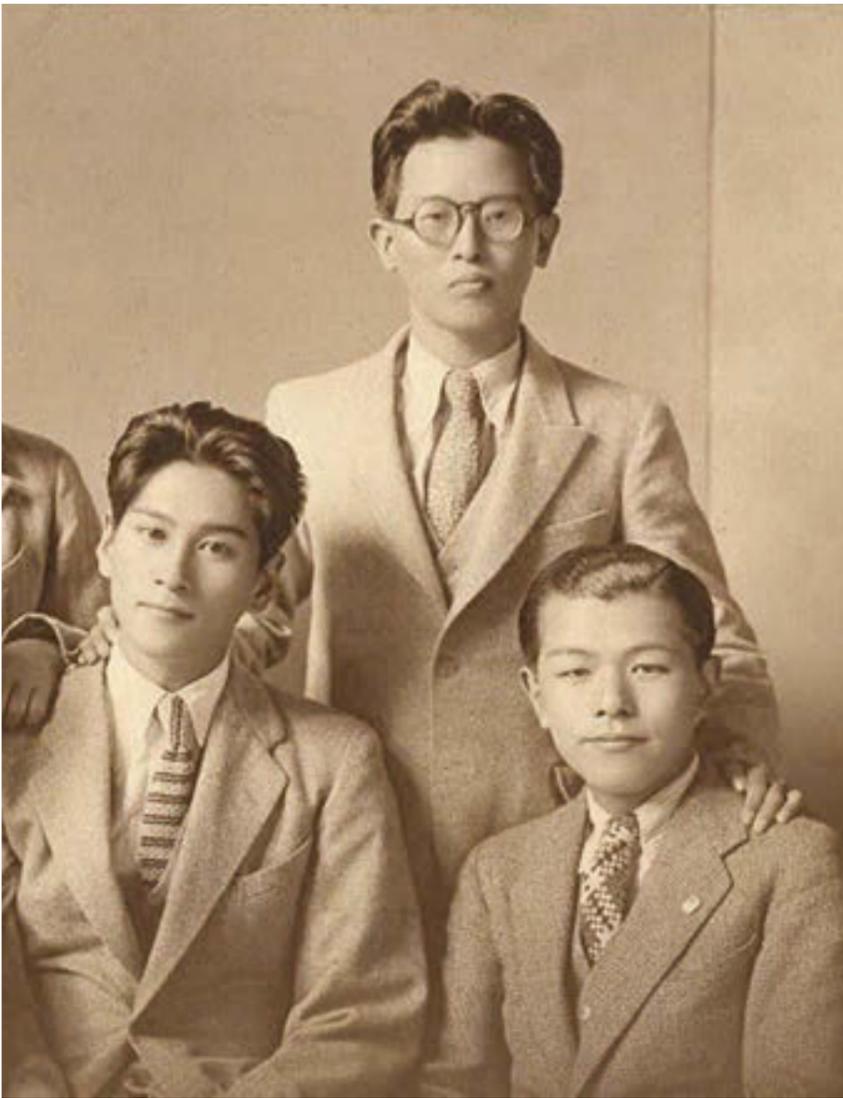
実は全員

福島圏域出身!!

コロムビア三羽ガラス

連続テレビ小説「エール」で窪田正孝さん(古山裕一役)、中村蒼さん(村野鉄男役)、山崎育三郎さん(佐藤久志役)が演じ、公開収録で来福もした「福島三羽ガラス」。史実では「コロムビア三羽ガラス」と呼ばれ、古関裕而さんは作曲家、野村俊夫さんは作詞家、伊藤久男さんは歌手として、それぞれの分野で活躍されました。お互いに切磋琢磨しながら、国民に愛される作品を次々と生み出していく様子はドラマでも大きな見どころとなりました。

■問／文化振興課 ☎525-3785



▲上／野村俊夫さん、左／伊藤久男さん、右／古関裕而さん

三羽ガラスゆかりの地 「暁に祈る」歌碑

信夫山第一展望台には、「暁に祈る」の歌碑があります。この歌碑は野村俊夫さんの功績をたたえるために建立されたものですが、古関裕而さん、伊藤久男さんにもゆかりのあるものです。「暁に祈る」は、昭和15年に制作された映画作品の主題歌として古関さんに作曲依頼のあったもので、作詞が福島市出身の野村俊夫さん、歌唱は本宮市出身の伊藤久男さんと「コロムビア三羽ガラス」が手掛けた作品です。



▲周囲には歌碑だけでなく作品の解説も

古関さんの自伝によれば「中支戦線に従軍した経験がそのまま生きて、前線の兵士の心と一体になり、作曲が楽だった。兵隊の汗にまみれ、労苦を刻んだ日焼けした黒い顔、異郷にあって、故郷を想う心、遠くまで何も知らぬままに運ばれ歩き続ける馬のうるんだ眼、すべては私の眼前に彷彿し、「一気呵成に書き上げた」と記しており、古関さんにとっても心臓の一作だったことがうかがえます。



▲「暁に祈る」歌碑

生涯で約5千曲を作曲！
福島市が生んだ大作曲家！

古関裕而

市内大町の呉服店の長男として生まれ、昭和5年に日本コロムビア株式会社で専属作曲家として入社。初めてのヒット曲「船頭可愛や」をはじめ、戦前・戦時中は「暁に祈る」「露営の歌」などの戦時歌謡、戦後は「雨のオランダ坂」「フランチェスカの鐘」「長崎の鐘」とんがり帽子」など未来へ希望を抱かせる明るい歌謡作品を次々と発表し、多くの人々に愛されました。

昭和22年以降は劇作家・作詞家の菊田一夫さんとのコンビで放送作品に力をそそぎ、NHKラジオドラマ「鐘の鳴る丘」さくらんぼ大将」「君の名は」などの主題歌を発表し、一世を風靡しました。

野村俊夫

市内大町出身。古関さんより5歳年上で、幼少のころはよく遊んだ仲間だったそうです。27歳の時に上京し、フリーの作詞家として活動を開始します。この年に発売されたデビュー作「福島行進曲」は、古関さんとのコンビとして最初の曲となりました。

昭和41年、61歳で亡くなるまで作詞活動を続け「暁に祈る」や「東京だヨ！おっ母さん」などのヒット曲を手がけ、生前は日本音楽著作権協会の理事を務めるなど、音楽業界の発展に寄与しました。

また、昭和23年には全国高等学校野球大会の歌「栄冠は君に輝く」を、昭和39年の東京オリンピックの入場行進曲「オリンピック・マーチ」を作曲しました。

音楽学校仕込みの歌唱力
昭和のスター歌手

伊藤久男

本宮市出身。ピアノストを目指しており、大学進学のため上京し、古関さんと出会います。昭和8年、既にコロムビアに所属し作曲活動を始めていた古関さんの勧めにより「今宵の雨」でデビューし、その後「暁に祈る」や「高原の旅愁」などが大ヒットします。

終戦後は映画の主題歌やラジオ歌謡など、さまざまなジャンルで活躍しました。紅白歌合戦にも11回出場しており、そのうち5曲が古関さん作曲です。



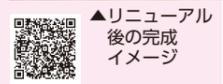
▲ボタンを押すと「栄冠は君に輝く」などの歌を聴くことができる本宮駅前モニュメント

実はここにも 多彩な古関メロディー

古関裕而さんの作曲した曲は、生涯で5千にも及ぶといわれ、クラシックや演劇、スポーツ、応援歌、映画音楽など、ジャンルは多岐にわたります。
■映画「モスラ」：モスラの歌
須賀川市出身の「特撮の神様」円谷英二さんが特殊技術監督を担当した映画。作中で小美人(ザ・ピーナッツ)が歌う、モスラを呼び出すためのあの歌も、実は古関さん作曲！
■別れのワルツ
お店の閉店前に流れるおなじみのあの曲。実はスコットランド民謡の「蛍の光」を古関さんが三拍子のワルツに編曲したものです。

リニューアル後をお楽しみに！ 古関裕而記念館臨時休館

館内展示の全面リニューアルのため、1月12日から臨時休館し、3月に再オープンします。詳しくは市ホームページをご覧ください。



▲リニューアル後の完成イメージ

